

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の2001年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は国庫（4,150,000円）県費（2,075,000円）の補助金の交付を受け、平成13年4月1日から平成14年3月29日まで、整理作業は平成13年4月1日から平成15年3月28日まで実施した。
3. 調査組織

調査主体者	大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担当課	生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教育長	遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
教育次長	池本敏雄	大井町臨時職員・発掘調査補助員	土本医(平成8年5月1日 ～平成14年8月31日)・早川由利子(平成14年9月17日～)
生涯学習課長	金子忠弘		
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
 本書の執筆は縄文時代の遺物を今井堯、第Ⅸ章（2）を土本医、それ以外を鍋島が行なった。
 挿図割付：高橋けい子 写真図版割付：青山奈保美 土器復元：中田藤子 旧石器実測：土本医
 土器実測・拓影：青山奈保美、石垣ゆき子、須藤さち子、丹治つや子、福島雅子、山口妙子
 トレース：小林登喜江 表作成：植田勢津子、福島雅子 図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、
 須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、福島雅子 遺構写真：鍋島直久、高崎直成、土本医、坪田幹男
 遺物写真：小室 登（巻頭遺物写真）、鍋島直久、青山奈保美
 遺物洗浄・注記・石器実測の一部を（株）東京航業研究所に委託した。また、整理作業全般において日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
 会田明、浅野晴樹、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、市丸靖子、上田寛、内田賢司、越前谷理、大久保淳、岡田賢治、
 加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、小室登、桜井信枝、
 笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、高橋京子、田中信、丹治剛、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、堀善之、
 松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治、
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 浅野賢太郎、新井和枝、飯塚泰子、伊藤弘一、伊藤大地、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、大塚香、
 笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、佐藤裕幸、篠崎忠三、嶋田侑一郎、
 鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高貝しづ子、田畑真基、戸澤竹二、中嶋末子、新本伸枝、野岡由紀子、
 林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、松村さとみ、三村美代子、村端和樹、横井治水、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 青山奈保美、石垣ゆき子、植田勢津子、小野太樹、小野寺佳代、加藤淳子、蕪木友美、鎌倉聖悟、
 小林登喜江、斎藤卓、椎名久美子、嶋田泰生、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、野口裕子、
 日比谷和美、福島雅子、前橋佑紀、丸山香織、本橋克則、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
 土器実測図 1:4、1:3 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 銭 1:1
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高に同じである。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱  地山（ローム） 焼土 
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
 - (4) 土器実測図における screen-tone の指示。
 地文縄文 撚糸文
 - (5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第3表 2001年度大井町遺跡調査会による埋蔵文化財調査一覧表

	遺 跡 名	申 請 地	面積(m ²)	原 因	調 査 期 間
1	東久保遺跡第32地点	東久保381	500	区画整理道路築造	13. 7. 16～13. 11. 30
2	亀久保堀跡遺跡第29地点	東久保29街区1. 2. 7. 8	161	店舗建設	13. 4. 18～13. 4. 20
調査面積合計			661		

第4表 その他の立会い調査一覧表

	遺 跡 名	申 請 地	面積(m ²)	原 因	処 置
1	本村遺跡	大井・苗間94街区1～6画地	587	小学校仮校舎	工事着手済みのため調査不可
2	東中学校西遺跡 縁辺	東久保52街区1画地	2,004	区画整理造成	盛り土のため工事立会い
3	本村遺跡	大井・苗間107街区11画地	280	駐車場	砂利敷きのため調査不要
4	東久保遺跡	東久保18街区4～6画地	1,156	区画整理造成	盛り土のため工事立会い
5	江川南遺跡	東久保1街区4画地	662	駐車場	砂利敷きのため調査不要
6	本村遺跡	大井・苗間86街区1, 2画地	214	公衆浴場	盛り土のため調査不要
7	本村遺跡	大井・苗間93-2街区8, 9画地	136	駐車場	砂利敷きのため調査不要
8	亀居遺跡	亀久保2-21	540	共同住宅	盛り土のため工事立会い

IV 亀久保堀跡遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

亀久保堀跡遺跡は福岡江川とさかい川の間、標高19～21mの低位台地に位置する。現在は区画整理事業により遺跡周辺の起伏は無くなりつつあるが、以前は僅かに埋没谷や窪地がみられた。周辺は区画整理事業と大規模開発により急激に変貌している。

周辺の遺跡は、北側に東久保遺跡、北西側に江川南遺跡、南側に東久保西遺跡が隣接する。

本遺跡の発見は1991年に江川南遺跡第2地点で堀状の遺構が初めて確認された事に由来する。その後、江川南遺跡縁辺部の調査でも堀跡の続きが確認されたため、遺跡の変更増補を行ない、1998年に亀久保堀跡遺跡として新たに遺跡の範囲と遺跡名を設けた。

これまでの調査から堀は、福岡江川付近から南下し、地藏院の東約80m付近で南東に向きを変え、約600m以上直線で延びる。堀の規模は上幅約3m、底幅約1.5m、深さは地表面から約1m、長さは600m以上で断面形は逆台形を呈する。覆土層上層に焼土を多く含む層が所々で確認されているが、出土遺物は無く、時代などは不明である。本遺跡に隣接する地藏院は、南北朝期の二階堂氏との関係から氏の館跡との想定もされており、堀跡との関係などが今後の課題であろう。

亀久保堀跡遺跡の範囲からは、縄文時代の落とし穴や近世の溝跡などが新たに確認されている。

本遺跡では2003年2月現在、29ヶ所で調査が行なわれている。



第7図 亀久保堀跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第8図 亀久保堀跡遺跡の調査区と遺構分布図 (1/3,000)

2 亀久保堀跡遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者から2001年4月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請地は周辺部の調査で堀跡の存在が確実なため申請者と協議の結果、遺構範囲確認の試掘調査を実施した。

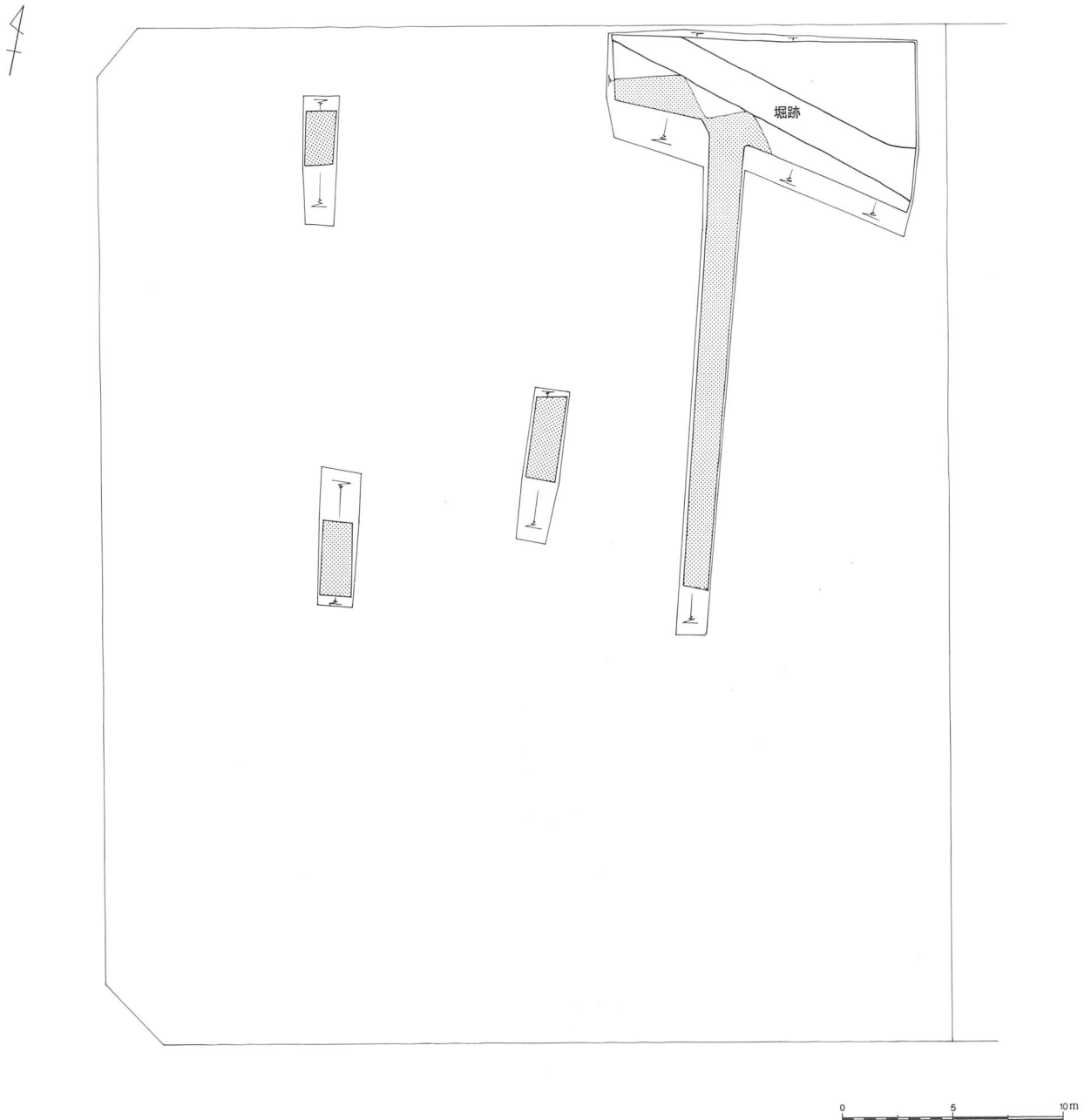
調査地点は平成5年の東久保区画整理事業実施以前から、深く掘削されたり廃棄物が埋められていたといわれていた場所である。東側に隣接する第28地点の調査でも攪乱の跡が多数みられた。

試掘調査は4月17日から、幅約1.8mのトレンチ4

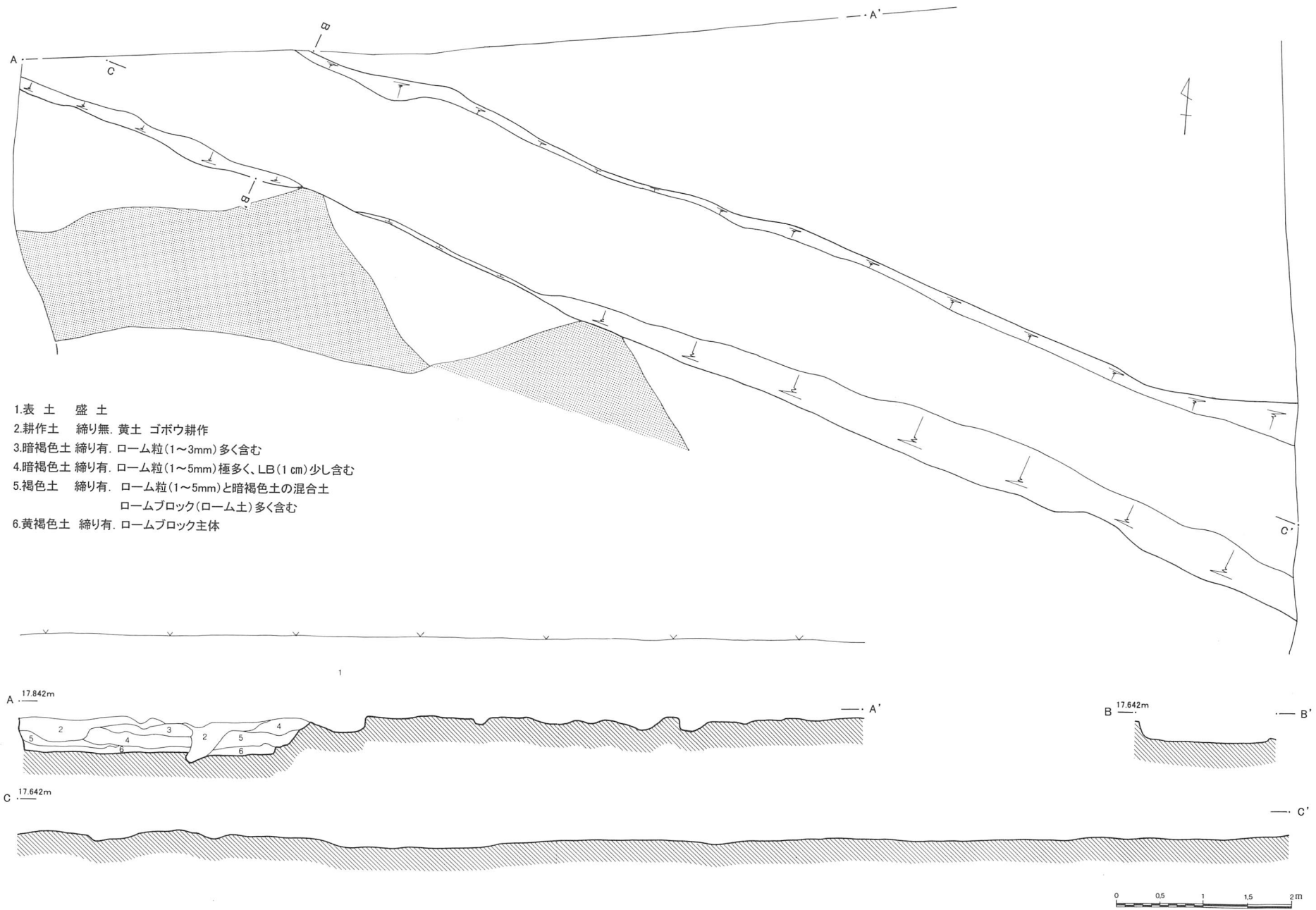
本と堀跡部分の表土を重機により除去した。その後、人力で遺構プランを確認し遺構を検出した。堀跡部分以外はほとんど攪乱されており、遺構内外とも遺物は確認されなかった。写真撮影・測量等記録後、4月20日埋め戻しを行ない調査を終了した。

(2) 遺構

堀跡の断面は逆台形を呈し底部はほぼ平坦であるが北端部で僅かにでこぼこがみられる。底部の標高は北西に向かって低くなる。検出部の規模は上幅1.43～2.23m、下幅1.05～1.48m、深さは北西端で約43cmを測る。



第9図 亀久保堀跡遺跡第29地点遺構配置図 (1/300)



第10図 亀久保堀跡遺跡第29地点堀跡 (1/60)



亀居遺跡第54地点調査区近景



亀居遺跡第54地点トレンチ全景



亀居遺跡第55地点調査区近景



亀居遺跡第55地点トレンチ2



江川東遺跡第6地点調査区近景



江川東遺跡第6地点トレンチ



亀久保堀跡遺跡第29地点調査区近景



亀久保堀跡遺跡第29地点堀跡